

第61次南極観測隊にインタビュー



こじま ひで はる 小嶋秀治さん

- ・国立極地研究所 南極観測センター（公立種子島病院）所属。医療担当。
好きなものはアルトサックス。



南極観測隊に参加したきっかけはなんですか？

高校時代に、地球温暖化やオゾンホールという現象を知り、環境問題に興味を持ちました。医師になり専門医などを取得して、将来の展望がみえてきたときに、自分の専門性を活かして社会貢献をしたいと考えようになりました。その頃、偶然にも研修医時代の後輩が南極観測隊の医療隊員として活躍していたのです。彼の話や南極観測隊についての書籍から、今も環境に関する調査・研究などが行われていることを知りました。世界に研究成果を発信していく方々、またそれを支える方々を、医師という専門性を活かしてチームの一員として支援すること、これが自分の取り組むべき社会貢献の形だと考えるに至ったのが参加を希望した契機です。



第61次隊ではどんな研究や仕事をされるのですか？何が楽しみですか？

私自身が計画した研究はありませんが、医科および歯科領域で継続中の研究をお手伝いし、取りまとめを行います。医師としての仕事は、健康診断、けがや病気の対応といった国内と同様のものもあれば、内陸調査などに行くときの帯同もあります。第61次隊では、南極移動基地ユニットの実証実験を行うので、医師としていろんな角度から考察する任務があります。また、基地内では水道の水質検査を行ったり、屋外ではペンギンの営巣地に赴いて、ペンギンの数を数える仕事をします。楽しみにしていることは、風景やオーロラなどを撮影すること、短編ドキュメンタリーやパロディ映画を制作すること、楽器を演奏することなど、とてもたくさんあります。きちんと仕事して、厳しい環境を乗り切ることをしっかりと楽しみたいです。



一言メッセージをお願いします！

「南極」が科学に興味を抱く契機になれば、とても嬉しいです。